

詩も田ではさい。

ちんといはう。實に、田の田である。詩の

詩である。

*

花を愛すべし。實はほ喰ひつべし。

ちんといふまじめいた態張りの、だがまた

人間の靈と肉とをそれからそれへとちがれつ

らぬいて。それほど深い實在の音があらう

か。

自然

おれもまた俳聖の言葉である。

あか

若城縣イソハマにて。

No.

No.

十ノ廿 松屋製

(SM) C-1